

2023年12月12日

各位

ENEOS株式会社

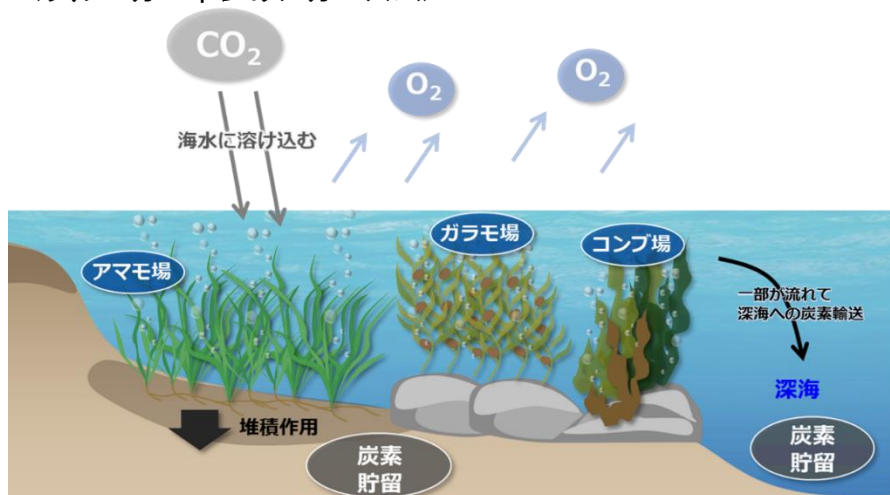
## 産官学連携による大規模ブルーカーボン創出の検討開始について

ENEOS株式会社（社長：齊藤 猛、以下、「ENEOS」）は、国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所（以下「PARI」）、国立研究開発法人 海洋研究開発機構（以下「JAMSTEC」）、国立研究開発法人 産業技術総合研究所（以下「産総研」）、国立大学法人 東京大学（以下「東大」）とブルーカーボンの大規模創出に向けた検討を開始しましたので、お知らせいたします。

海洋生態系に取り込まれた炭素「ブルーカーボン」は、CO<sub>2</sub>の吸収源対策の新しい選択肢として期待されています。大気中のCO<sub>2</sub>は、海草・海藻藻場などのブルーカーボン生態系の光合成により取り込まれ、海底に堆積したりや海洋中深層に分解されながらも長期間留まることによって、ブルーカーボンとして大気から隔離されます。このメカニズムを広域で適用し人が積極的に関与することで、脱炭素社会の実現に向けた100万トンの超の大規模ブルーカーボン創出を目指します。

当社とPARI、JAMSTEC、産総研、東大はそれぞれの知見を結集しブルーカーボンの大規模な隔離・貯留を中心とした「ブルーカーボン生態系のCO<sub>2</sub>吸収源としての利活用」に関する検討を行います。

### 〈ブルーカーボンのメカニズム〉



<海藻が生き茂る海中の様子（PARI提供）>



<連携先代表研究者メッセージ>



桑江 朝比呂（PARI所属）：

『日本が掲げる2050年にカーボンニュートラル達成に不可欠なCO<sub>2</sub>除去技術の中でも中核を担う可能性のあるブルーカーボンの大規模創出技術の開発に向け、ENEOSと精一杯取り組んでまいります。』

川口 慎介（JAMSTEC所属）：

『持続可能な地球を将来世代に引き渡せるよう、産官学連携でカーボンニュートラルの実現を目指します。』

鈴木 昌弘（産総研所属）：

『大気CO<sub>2</sub>の削減技術の中でも最も自然に近いプロセスを利用すると考えられるブルーカーボン技術ですが、海洋環境や海洋生態系への影響をしっかりと把握し、より適切な手法を構築できるように取り組んでまいります。』

多部田 茂（東大所属）：

『海洋国家である我が国の地理的、技術的、社会的なポテンシャルを生かしたブルーカーボン創出技術の開発を目指して、産官学の連携のもと取り組んでいきます。』

ENEOSグループは、Scope 1、2<sup>※1</sup>のCO<sub>2</sub>排出量を2030年度までに2013年度対比46%削減、そして2040年度までにカーボンニュートラルを実現するという目標を設定しており自然吸収増加に向けて取り組んでおります。これまでも海草・海藻藻場再生事業においてカーボンクレジット（Jブルークレジット）を認証・取得しており、本検討を通してブルーカーボンの取り組みを加速します。

今後も当社はカーボンニュートラル社会の実現に向け、CO<sub>2</sub>の自然吸収増加に向けた取り組みを推進することで、温室効果ガス排出削減を推進してまいります。

以上

※1 Scope 1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼、工業プロセス）  
Scope 2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出